社會主義陣營をようごしょう

1963

社會主義陣營をようごしよう

發　行　1963 年 11 月
出版者　外國文出版社
印刷者　平壤總合印刷工場

朝　鮮・平　壤

社會主義陣營をようごしょう

朝鮮・外國文出版社・平壤

1963

本書は一九六三年十月二十八日付「勞働新聞」の論説「社會主義陣營をようごしよう」の全譯である。

社會主義陣營をようごしょう

こんにち、國際共産主義運動は、大きな試練をうけている。國際共産主義運動に發生した意見の相違はいっそう深刻化している。一部の人たちは、マルクス・レーニン主義とプロレタリア國際主義の原則から遠く離れて修正主義の泥沼の中に深くはまりこんでいる。現代修正主義は、人民の革命の大業と平和の偉業に、大きな障害をつくりだしている。

修正主義者の策動のために、共産黨と勞働者黨は、平和と民主主義と民族の獨立と社會主義のためのたたかいで、意志と行動の統一を保障できずにいる。社會主義陣營の統一と國際共産主義運動の團結は、重大な脅威にさらされている。このような事態は、全世界の共産主義者と勞働者階級の中に深い憂慮をかもしている。

朝鮮の共産主義者は、敵とのきびしい闘争を通して、社會主義陣營の偉大な生命力を、はっきりと体験した。

われわれは、社會主義陣營の分裂に反對し、心からその統一をねがっている。われわれは、國際共産主義運動の勝利のため、マルクス・レーニン主義の旗を高くかかげて、社會主義陣營の統一をまもり、社會主義陣營の威力を强め、その役割を高めることが、こんにち、全世界の共産主義者の前にあらわれたさしせまった共同の闘争課題であると考える。

一、社會主義陣營は國際プロレタリアートの偉大な獲得物である

社會主義は、いまや世界的な規模で勝利をおさめつつある。社會主義はすでにヨーロッパとアジアの廣大な地域で勝利し、世界反動の元凶、アメリカ帝國主義のそれこそ門前にある島國、キューバでも勝利した。社會主義陣營は、世界人口の三分の一、地球陸地の四分の一、世界工業生産高の三七％以上をしめている。科學・技術の發達でも、社會主義陣營は發達した資本主義諸國を追いこしている。世界人民の中で、社會主義の影響力が非常に强まり、ますます多くの人民が社會主義をめざしてたたかつている。

國際舞台で、社會主義勢力は、帝國主義勢力を壓倒している。

社會主義勢力の成長は、何よりもまず、全世界の共産主義者と勞働者階級の偉大な勝利である。國際プロレタリアートが資本の鐵鎖をたち切つてかちとつた、このような世界史的勝利は、決してたやすくおさめたものではない。

マルクスとエンゲルスの偉大な「共産黨宣言」が發表されて以來、國際プロレタリアートは、共産主義者の指導のもとに幾多の難關ときびしい試練をのりきつて英雄的にたたかい、敵との命がけのたたかいを通して勝利の道をきりひらいてきた。

ブルジョアジーと世界のあらゆる反動勢力は、共産主義者を自分らの最もおそるべき敵だと言いひろめ、科學的共産主義思想の傳播と、國際共産主義運動の發展をはばむため、あがきの限りをつくした。共産主義者は、つねに進歩的な人民の先頭に立つて、あらゆる凶惡な敵に反對し、形容し難い困難なたたかいをすすめてきた。

けわしいたたかいの途上、國際共産主義運動は、さまざまな波瀾と曲折をへた。共産主義者は、ときには骨身にしみる失敗をなめ、苦しい退却をしなければならなかつたこともあつた。試練にぶつかるたびに、降伏主義者や裏切り者が現れて、革命の隊列をけがした。

しかし、眞の共産主義者は、失敗に落胆せず、勝利に酔うこともなく卑怯者らが離れさろうとどうしようと、つづけて革命の赤い旗をまもりぬいたのである。ときには地下で、ときには武器をとつて、ときには鐵格子の中で、共産主義者たちは、ひたすら勞働者階級と勤勞人民の解放のために、不死鳥のようにたたかつた。

共産主義者の指導のもとに、國際プロレタリアートはあらゆる犠牲をかえりみず、資本の陣地を絶え間なく攻撃し、敵とのはげしい闘いの炎の中で偉大な革命勢力に成長した。

歴史上はじめて勞働者階級が自らの主權をうちたてたパリ・コンミューンは、それをまもつて立ちあがつたパリーの勞働者階級の七十余日にわたる命がけの闘争の末、失敗に歸した。コンミューンは、野蠻きわまる白色テロルのため血の海にしずめられた。しかしパリーの勞働者階級の英雄的な闘争の業績と、かれらが血を流してあがなつた貴重な教訓は國際プロレタリアートにうけつがれた。

國際共産主義運動の最初の偉大な勝利は、レーニンの指導のもとに、ロシアの勞働者階級によつておさめられた。十月社會主義革命の勝利で、社會主義は科學的な思想から生きた現實に轉じ、國際共産主義運動は自分の强力なとりでをもつようになつた。

十月革命の勝利は、全世界の勞働者階級と勤勞人民を自由と解放めざす英雄的なたたかいにたち上らせ、長い間「歴史の外に立たされ、ただ歴史の對象とだけ見なされてきた數億」（レーニン）（1）の東方人民を目覺めさせた。革命の嵐が全世界をまきこみ、國際勞働者階級の革命運動は、東方の被抑壓民族の解放運動と結びついて、帝國主義にいつそう致命的打撃をあたえるようになつた。

帝國主義者とあらゆる反動勢力は、最初の社會主義の國、ソ連をしめ殺し、國際共産主義運動と勞働運動をおしつぶすために必死になつて策動した。

しかし、ソ連人民は、レーニン黨の指導のもとに、内外の敵の悪らつな攻撃をしりぞけて、革命の偉大な獲得物をまもりぬき、資本主義の包圍の中で、あらゆる難關にうちかつて、成功裏に社會主義の建設をすすめた。敵のあがきにもかかわらず、國際共産主義運動の隊列は偉大な革命の旗、レーニン主義の旗のもとに急速に強大な勢力に成長した。

國際資本は、もつとも暴虐で残忍な帝國主義ーファシズムを歴史の舞台に登場させ、それを社會主義の國ソ連と國際共産主義運動と勞働運動にたいする突撃隊にかりたてた。全世界的な規模で革命と反革命との間に、はげしいたたかいがすすめられた。

共産主義者は、ヨーロッパとアジアで、世界のいたるところで、反ファッショ戰線の先頭にたつて英雄的にたたかい、凶暴な敵との決戰で尊い血潮を流した。多くの共産主義者が、被抑壓勤勞大衆を導いて、長期にわたる武装闘争をくりひろげ、略奪者に甚大な打撃をあたえた。

英雄的ソ連軍の決定的な役割で、ドイツファシストと日本軍國主義者は完全に撃破された。

國際共産主義運動をしめ殺そうとした帝國主義者の企みは、國際プロレタリアートをはじめ被抑壓勤勞大衆の英雄的なたたかいによつて粉砕され、世界の多くの人民が、自由と獨立のためのたたかいで勝利をおさめた。

ヨーロッパとアジアの一連の國ぐにで人民民主主義革命が勝利した。偉大な中國革命の勝利は帝國主義勢力に大きな打撃をあたえ、國際舞台での力關係を、社會主義に決定的に有利に變え、植民地民族解放運動を大いにはげました。

社會主義は、一國の範圍をこえて、世界的体制に發展し、社會主義諸國は帝國主義陣營に對峙する強大な

陣營を形づくるにいたつた。
　社會主義陣營の形成は、國際共産主義運動の發展で、大きな、歴史的出來ごとである。このときから國際共産主義運動は、革命の終局の勝利のための盤石のような地盤をもつことになり、社會主義勢力は、次第に人類社會發展の決定的な要因に變つていつた。
　社會主義陣營の形成は、人類の歴史發展の合法則的過程である。それは、國際プロレタリアートと國際ブルジョアジーとのはげしい階級闘爭の産物であり、資本主義に對する社會主義の勝利の結果である。それは百年あまりの間、マルクス・レーニン主義の旗を高くかかげて榮ある闘爭の道を歩んできた國際共産主義運動の主な總括であり、長期にわたる國際プロレタリアートと被抑壓勤勞大衆の血みどろの闘爭の偉大なみのりである。社會主義陣營の形成は、資本主義の滅亡と社會主義の勝利は避けられないということをいつそうはつきりと證明した。
　社會主義陣營は誰かが人爲的につくりだしたものでもなく、何らかの國際條約によつて形成されたものでもなく、一時的な「ブロック」でもない。それは、國際勞働者階級の解放闘爭の發展の中で、歴史的に形成されたものである。勝利した勞働者階級は、自分たちだけが持つ階級的連帶の要求から必然的に、一つの陣營に結集した。
「社會主義陣營とは、社會主義と共産主義の道をすすむところの社會主義的國際連帶性のかたいきずな、共通の利益と目的で結合された主權をもつ自由な諸民族の社會的、經濟的、政治的共同体である」（共産黨・勞働者黨代表者會議の聲明）（2）
　勞働者階級の指導する新しい形態の國ー社會主義諸國の階級的同盟体としての社會主義陣營は、すでにその偉大な生命力をはつきりと實證した。社會主義陣營は、この陣營に入つている兄弟的諸國人民の共同の繁榮のために大きな役割を果しているだけでなく、世界人民の平和の大業と革命の偉業に、偉大な貢献をなし

た。

統一された強力な社會主義陣營はわれわれの時代の偉大な革命勢力であり、世界平和の不敗のとりでであり、あらゆる進歩的人民のゆるぎない勝利の裏づけである。

社會主義陣營の存在は、全世界の勞働者階級と革命的人民を結束させ、全世界の進歩的人民を英雄的な闘争へと力づよくふるいたたせている。社會主義陣營の威力の成長は、全般的な國際情勢を人民の革命闘争にいつそう有利に變えるものである。それはまた、帝國主義の侵略政策に强力な打擊となり、すべての反動勢力をおののかせる。

アメリカを頭とする帝國主義者とその手先らは、社會主義陣營を破壞するために氣違いじみた策動をこらしている。いま、かれらは、とくに社會主義陣營を內部から切りくずし、社會主義諸國を各個擊破しようとの陰險な術策にいつそうしがみついている。かれらは社會主義諸國を互に離間させ、社會主義陣營を分裂させて、そこから漁夫の利をえようとしている。

帝國主義者は、社會主義陣營を破壞するための策動に、現代修正主義者を利用している。チトー一味は、修正主義におちいつたその日から、社會主義陣營にほこさきを向ける惡らつな策動を系統的におこなつており、帝國主義者に忠實につかえている。

こんにち、一部の人は、チトー一味を積極的にかばい、ますます社會主義陣營を混亂させ分裂させる危險な道へ進んでいる。これは、かれらが社會主義陣營を破壞しようとする帝國主義者とチトー一味の策動に合流しているということをしめしている。國際プロレタリアートと全社會主義國の人民は、かれらが血潮でかちとり、命にかけてまもつてきた偉大な革命の獲得物を破壞するのを、斷じて許すことはできない。

全世界の共產主義者と勞働者階級は、國際共產主義運動の終局の勝利のために、帝國主義者と現代修正主義者のあらゆる破壞策動をしりぞけて國際プロレタリアートの偉大な獲得物である社會主義陣營を決然とま

もらなくてはならない。

二、社會主義陣營全体をようごするのは共產主義者の國際主義的義務である

社會主義陣營の不拔の威力はその隊列の統一にある。社會主義陣營の團結した力は、帝國主義者の侵略から、個々の社會主義國をたのもしくまもり、社會主義陣營の全般的範圍で、社會主義の完全な勝利を確保する主要な裏付けである。實に社會主義陣營の統一は、共產主義運動の力を何倍にも强化する。團結は、勞働者階級の手ににぎられた最も强力な武器である。勞働者階級は、歷史の舞台に登場した最初のときから、團結の力によつて、困難なたたかいで資本家階級にうち勝つことができた。こんにちも社會主義陣營は、統一された隊伍で進むことによつてのみ、帝國主義者にひきつづき强力な打擊をあたえ、かれらを窮地においつめることができる。

しかし、現在、社會主義陣營は內部の意見相違のために、事實上、全一的な隊伍で團結した力で進めずにいる。

われわれの內部では、帝國主義者の面前で、マルクス・レーニン主義をかたくまもり、革命的な立場を堅持する兄弟黨と兄弟國をそしり、攻擊するという前例のないことがおこなわれている。

イデオロギー上の論爭を國家の關係にまでひろげ、あれこれの社會主義諸國を孤立させ、排除するための策動がなされている。大衆と他の兄弟黨や國際組織まで動員してマルクス・レーニン主義諸黨と兄弟諸國に反對する騷々しいカンパニアがくりひろげられている。

一部の人たちは、革命の同志と階級の敵を見分けないところにまでいたつた。かれらは、敵にはいつそう

近づき、「親善」と「好意」を示しながら、階級的兄弟と革命の同志には、かえつて仇敵のように對するがまんのならない現象までおこしている。

全世界の勞働者階級の大業をめざす共同のたたかいで、生死苦樂をともにすべき兄弟黨、兄弟諸國にたいし、うしろざまからこのような打撃を加えている。

これをよろこぶのは、ただ帝國主義者だけである。帝國主義者は、われわれがいがみあい、爭つて、仲間割れするのをのぞんでいる。帝國主義者は、國際共産主義運動内部の「意見の相違」を利用するチャンスをのがしてはならない」と言いちらしながら、社會主義陣營の「分裂」が既定の事實であるかのように見せようとあせつている。

共産主義者は、社會主義陣營の運命と世界革命の前途にかかわるこの重大な事態に手をこまねいていることはできない。

こんにち、全世界の共産主義者の前には、何よりもまずだんこ社會主義陣營をようごすべき緊急な課題がよこたわつている。

社會主義陣營をようごすることとは、全世界の勞働者階級の長期にわたる闘爭の歴史的獲得物をまもることであり、世界革命の基地をようごすることを意味する。社會主義陣營をようごするということは、あるひとつの社會主義國あるいは社會主義陣營の中の一部の國だけをようごすることではなく、すべての社會主義國人民の社會主義建設の成果をまもり、社會主義陣營全体をようごすることを意味する。

過去においては、世界で唯一つの社會主義國家であるソ連を支持しようごすることが、プロレタリア國際主義の試金石と見られた。

かつて、ソ連は資本主義の包圍の中でただひとりで社會主義を建設し、各國人民の革命闘爭を積極的にはげまし、支援した。ソ連は世界革命の唯一の基地であつた。

したがつて、當時、全世界の共産主義者にとつて、ソ連をようごし支持することは、とりもなおさず世界革命を支持し、ようごする神聖な國際主義的行動であつた。これはきわめて當然なことであつた。

日本帝國主義の暗たんとした植民地統治時代に、朝鮮の共産主義者も全世界の共産主義者とともに、希望をこめてソ連をあおぎ、「武力をもつてソ連をようごせよ」のスローガンで、ソ連人民への戰闘的連帯をしめした。

こんにち社會主義諸國の隊列は十三ヵ國にふえた。こうしてソ連とともにすべての社會主義國が國際革命運動でひとしく「突撃隊」の役割をうけもち、遂行するようになつた。

スターリンは次のようにのべた。

「まだ《突撃隊》が一つしかなく、ほとんど單獨でこの前衛の役割をひきうけなければならなかつた頃は、もちろん、この光榮な役割を遂行するということは、非常にむずかしいことであつた。しかしこれはすでに過去のこととなつた。いまは全く事情がちがう。

中國と朝鮮からチェコスロバキアとハンガリーにいたるまで、人民民主主義諸國という新しい《突撃隊》があらわれたこんにち、わが黨は闘争も樂になり、また、活動にも興がのるようになつた」(3)

このように社會主義諸國の隊列がのびゆくにつれ、世界革命の基地もひろがつた。いまでは、ある一國だけでなく、社會主義陣營全体が、世界革命の基地となつた。

したがつていまではソ連とともにすべての社會主義國、社會主義陣營全体を支持し、ようごすることがほんとうの國際主義的行動である。ただこういう態度だけが、革命の勝利を共同でまもり、かため、世界革命をいつそうおしすすめる道である。

もちろん、社會主義諸國の中には、大きな國もあれば小さい國もあり、革命後の歴史の長い國もあれば短い國もある。

大きい國が小さい國より、また革命後の歴史の長い國が長くない國よりも國際關係でより大きな役割を果すことができ、また果すべきである。大きい國、さきに革命をなしとげた國が、社會主義陣營の威力を強めるうえにより大きく貢献することができ、被搾取大衆と被抑壓民族の解放闘爭により大きな影響を及ぼすことができ、世界平和をまもる上でも、より大きな役割を果すことができる。

しかし、だからといつてこれは決してある國が社會主義陣營全体を代表し、それにかわりうる、ということを意味しない。

いかに大きく、發展した國であつても決してある一國の威力が、社會主義陣營全体の威力にとつてかわることはできず、ある一國の役割が社會主義陣營全体の役割にとつてかわることはできない。

社會主義諸國は、大國であろうが小國であろうが、革命後の歴史の長い國であろうが短い國であろうが、經濟の發達した國であろうがおくれた國であろうが、ひとしく、革命的な立場に立つてねばりづよく努力するならば、めいめいが占めている位置で、社會主義陣營全体の威力を強め、國際共産主義運動の發展に貢献することができる。たとえば、キューバは、いま西半球における最初の社會主義國として、ラテンアメリカの全人民に大きな革命的影響を及ぼしている。他のいかなる社會主義國も、キューバの位置と役割にとつてかわることができないのは明らかである。

すべての社會主義國が力を合わせ、一つの全一体として固く團結してのみ社會主義陣營は、その威力を十分に發揮することができる。だからこそわれわれは、社會主義陣營全体の威力を強め、社會主義陣營全体の役割を高めるために、あらゆる面から努力しなければならない。

もしも、あれこれの黨の指導者が、自分の國が大きく、ぼう大な經濟力を擁する強國だということだけを鼻にかけて、ほかの兄弟黨、兄弟諸國をあなどる行動に出るならば、それは社會主義陣營の力を弱め、團結をやぶることになり、國際共産主義運動に大きな害毒を及ぼすであろう。

最近、一部の人たちは、社會主義陣營からいくつかの國を切りすててしまつても惜しくはない、といつたような行動をとつている。

これこそ、ある國は特別な位置にあつて何でもできるし、ほかの國は別に大きな役割をはたせない、という間違つた考えの具体的なあらわれである。

共産主義者にとつてはある特定の國の革命成果だけが大切なのでなく、すべての社會主義國の成果がみな一様に大切なのである。

われわれは、國際勞働運動の榮ある獲得物である社會主義陣營をようごし、それをいつそう盤石にかため、それを土台にして、新たな勝利に向かつて前進すべきである。すでに占めている社會主義の陣地をかためるのは、明日の勝利のためのもつとも重要な裏づけである。もしも社會主義陣營の統一と威力を弱めるならば、それは國際共産主義運動に重大な悪結果をおよぼすであろう。

最近、われわれは、中華人民共和國に反對する世界的カンパニアがくりひろげられているのを目撃している。

帝國主義者とすべての國際反動勢力は、悪意にみちて中國革命の勝利を憎んでおり、中國の威信をおとし、中國を孤立させるために狂いたつている。

ところで、自ら共産主義者と任じている一部の人たちが帝國主義者といつしよになつて中國共産黨と中華人民共和國を根據なしにののしり、猛烈に攻撃しているのは、恥ずべきことであり、きわめて危險なことである。

中國を孤立させることは、事實上、社會主義陣營を分裂させることである。はつきりいつて、社會主義陣營の人口の三分の二をしめる中國をのけものにして、いつたい社會主義陣營を論ずることができようか。

これは大國だけでなく小國の場合も同じである。それがいかに小さい國であろうとも社會主義陣營から除

くことは許せない。こうした行動は、長期間の革命闘争の結果たたかいとつた社會主義の獲得物を帝國主義者の手にゆだねることとかわりがない。

社會主義陣營を守らず、かえつて、昨日はある國を、きようは他の國を、明日はまた別のある國を孤立させ排除するといつたやり方でゆくならば、結局それは社會主義陣營の分裂をまねき、國際共產主義運動を四分五裂させるということは火を見るより明らかではないか！

あれこれの社會主義國を孤立させ排除することは、その一國だけにかかわる個別の問題ではなく、社會主義陣營全体の運命にかかわり、世界革命の運命にかかわる根本的問題である。

われわれは、一國でも多く革命に勝利して社會主義諸國の隊列がひきつづき大きくなることを願つておりそのためにたたかつている。いわんや、すでに革命に勝利した社會主義國をきりすてようとするふるまいをどうして許すことができよう？　一つの國よりも二つの國が、十二の國よりも十三の國が社會主義陣營に屬していることが、われわれにとつて、どんなに素晴らしいことか！

一部の人たちは、ある國ぐにを社會主義陣營から切りすてようとする一方、國際共產主義運動で、一致して糾彈されたチトー一味のような帝國主義の召使を、勝手に社會主義陣營にひきずりこもうと策している。

これは途方もないことである。

あれこれの國が社會主義陣營に屬するか屬しないかは、ある個人や何人かの主観で決まるものではない。ある國を社會主義陣營から除こうとするからとて、その國が社會主義國であることを止めるはずはないし、また、社會主義國でない國に「社會主義の稱號」をあたえて社會主義陣營にひきいれようとしてみたからとてその國が社會主義國になるものでもない。

社會主義陣營は、ある一個人のおもちやではない。

分裂は許されてはならず、統一は守られねばならない。

社會主義陣營は、マルクス・レーニン主義とプロレタリア國際主義の原則、共産黨・勞働者黨代表者會議の宣言と聲明の革命的原則にもとずいて統一されねばならない。この原則を離れてはいかなる統一も實現できない。

革命の道からはずれて社會主義陣營の分裂をまねく人たちは、それがもたらす結果にたいして重大な責任をおうようになるであろう。

マルクス・レーニン主義黨は、どのような局面にぶつつかつても、すべての試練をのりきるであろうし、プロレタリア國際主義の旗を高くかかげひきつづき力強く前進し、あくまで社會主義革命と社會主義建設を遂行するであろう。革命の前進運動をさえぎることはできない。

社會主義陣營は、全一の隊伍としてかたく團結して、帝國主義と修正主義にだんこ反對し革命の旗を高くかかげて進むとき、その歷史的任務を全うすることができるのである。

三、兄弟黨、兄弟國は相互關係の準則を嚴格に守らねばならない

共産黨・勞働者黨および社會主義諸國は、同じ思想と共通の闘爭目標によつて結集している。

共産黨・勞働者黨代表者會議の宣言と聲明は、マルクス・レーニン主義的見地から兄弟黨および兄弟諸國間の相互關係の本質と原則を全面的に解明した。

宣言と聲明は、兄弟黨および兄弟國間の相互關係の準則を、完全な平等、自主性、相互尊重、内政不干渉と同志的協力などと規定した。

この準則は、長期間の國際共産主義運動と社會主義陣營の發展の中でつまれた歷史的經驗を總括して、各國の兄弟黨が一致してくだした結論である。

まさにこの準則は、各國の黨の團結の基礎となり行動統一の規準となつている。この準則の正しさはすでに實際によつて證明された。

各國の兄弟黨と社會主義諸國が、この相互關係の準則を嚴格に守るとき、社會主義陣營と國際共産主義運動の團結は、眞に自發的で意識的なものとなり不動のものとなる。こうした準則に違反し、言行が一致しないとき、兄弟黨および兄弟國間には複雜な問題がもちあがり、社會主義陣營の團結をそこなうようになることはさけ難い。

すべての社會主義國と共産黨・勞働者黨は、平等で自主的で、互に尊重しあうべきである。共産主義運動の隊列内では、いかなる人も特權的地位を要求しえず、上級と下級の關係などというものはありえない。すなわち、ある人は、ある中央の位置から命令し統制し、別の人はその下で服從しとりおこなう關係などというものはありえない。

ある一つの黨が他の黨に自分の意思をおしつけてはならず、一方的な尊重を要求してはならない。共産黨・勞働者黨は、互に同志的に支持し協力し援助しあわなければならない。

最近數年間に、國際共産主義運動には、兄弟黨間で合意にたつしたこの相互關係にかんする準則に甚だしく違反する事實が現れている。

口ではひとしく共産黨・勞働者黨代表者會議の宣言と聲明の諸原則を遵守するといつている。しかし實際においては、これらの原則を守つていない。

一部の人たちは、兄弟黨の關係に、中央集權制と少數が多數に服從する原則を適用すべきだと主張している。

中央集權制は、個々の黨の黨内活動に適用される準則である。この原則はけつして、兄弟黨間の關係に適用されるべきではない。

一つの黨の中では、黨の下級機關は上級機關に服從し、すべての黨組織は黨中央委員會に服從し、少數は多數に從う。
もしも個々の黨のこの黨內活動の準則を兄弟黨の關係にあてはめるならば、どのような結果をまねくであろうか？
それは既成の權威をもつたある一つの黨がよせ集めた機械的な多數をもつて、自分の一方的な意思を他の黨におしつける結果をもたらしうる。
そうなれば、共產主義運動の隊列內の自覺的で自發的な團結はくずれ去り、大國主義的な傲慢と官僚的專橫がはびこり相互の不信が生れるであろう。
結局は兄弟黨間に、意志と行動の統一はのぞめなくなる。
がんらい共產主義者は、あらゆる不平等に反對してたたかつてきた。それを、いま、共產主義者が自ら不平等關係をつくりだすのをどうして許すことができよう！
兄弟黨間の相互關係に中央集權制を適用しようとする主張は、すでに各國共產黨・勞働者黨代表者會議で排擊され、破產したのである。
げんざい、各國の兄弟黨は、コミンテルンが存在していたときとは根本的にことなる情勢のもとで活動している。
世界革命運動は、すべての大陸にわたつてかつてない規模と多樣な形態に擴大發展し、情勢は急激かつ複雜に變化している。各國の共產黨・勞働者黨は、長期にわたる革命鬪爭の中で、自國の革命を責任をもつてやれるまでに練りきたえられ、有力な政治勢力に成長した。
こうした狀況のもとで、ある一つの「中央」からの唯一の指導などやれるものでなく、またその必要もなくなつた。

これは勿論、各國の兄弟黨が互に何らのつながりもなく分散的に革命事業をすすめることを意味するのではない。

共産黨・勞働者黨および社會主義諸國は、共通の敵に反對し、共同の偉業をめざすたたかいにおいて、プロレタリア國際主義の原則にもとずいて、互に緊密に協力し、互に支持すべきである。

これとともに各國の兄弟黨は、共通の關心事となる問題をともどもに協議して見解を一致させ、國際共産主義運動の統一的な戰略と戰術を規定すべきであり、共同でくだした評價と結論を一致して遵守しなければならない。

ただこうすることによつてのみ、兄弟黨、兄弟國間の階級的連帶を强め、意志と行動の統一を確保することができる。

兄弟黨の間には、意見の相違が起りうる。それは、各國の兄弟黨の活動する條件と具体的任務がことなることからも起りうるし、また、マルクス・レーニン主義にたいするあやまつた認識と革命に對する間違つた態度からも起りうる。

兄弟黨の間に意見の相違が生じたときは、事實と原則にもとづいて、眞劍でねばり强い同志的話し合いを通して解決するようにしなければならない。

しかし、げんざい一部の人たちは、兄弟黨間に合意をみた諸原則を氣ままにすてさつて、意見相違の問題をいろいろな壓力をかける方法で處理しようとしている。自分の意思に從わない兄弟黨にたいして、頭から「敎條主義」「分派主義」「民族主義」「冒險主義」「好戰分子」などのレッテルをはりつけている。

最近にいたつて、彼らは黨と黨の間のイデオロギー上の論爭問題を、ますます國家的關係を悪化させる方向に擴げている。兄弟國間の協定を一方的に破棄し、經濟的技術的協力關係をほとんど斷絶同樣にしている。大使をはじめとする外交官や記者をひんぱんに追放している。兄弟國と國交を斷絶することさえためら

わない。

いつたい、兄弟黨間のイデオロギー上の論爭問題を國家の關係にまでおしひろげて、事態をますます悪化させねばならない理由がどこにあるのか？　帝國主義諸國とも國家的關係の改善に努めながら、どうして、兄弟國にたいしてそのように振舞うことができるのか？

これで得をするのは帝國主義者であり、損をするのは社會主義陣營だけである。

共產主義者は、どんな場合でも決して階級的立場を離れるとか、共產主義的モラルと信義を忘れてはならない。

世界各國のマルクス・レーニン主義黨は、勞働者階級の階級的連帶によつて強く結ばれている。階級的同盟の原則を離れて、國際共產主義運動など存在しえない。各國の兄弟黨は、膚の色とか人種や地域の違いとか、國の發達水準などの表徵にかかわりなく、もつぱら階級的戰友として平等な立場で、互に尊重し協力しあわねばならない。

げんざい、一部の人たちは、國際共產主義運動のこの初歩的準則さえふみにじつている。

ある人たちは、アジア諸國の黨は「經驗があさい」からひとりだちでは活動できないかのようにいつている。またある人たちは、ある一つの民族や人種の「優越性」と特にすぐれた役割を前面におしだして、よその國の階級的兄弟をみくだしている。

このようなことは、すべて兄弟黨を侮辱する傲慢な態度であり、階級的團結をきりくずす民族排外主義的なふるまいである。革命にたずさわる人びとにとつて、これは斷じて許されないことである。

「たちおくれたアジア」という觀念や「すぐれた民族」、「劣等民族」の觀念は、すでに久しい前に糾弾され、ほおむりさられた昔の遺物である。これは、共產主義運動の隊列からつまみださねばならない。

兄弟黨、兄弟國の間で、一方が他方の內政に干渉し、一方的な尊重を要求するような行爲は、相互間の正

常な關係を悪化させる重要な根源である。
ある人たちは、援助にかこつけて兄弟黨、兄弟國の內政に干渉し、自分の一方的な意思をおしつけている。

共産黨および勞働者黨と社會主義諸國が、共同の偉業をめざす闘爭において互に支持し、協力しあうのは當然の國際主義的義務である。この相互援助と協力はまた誰か片方にだけ必要なのではなく、すべての兄弟黨、兄弟國にひとしく必要である。したがつてこれは、一種の恩惠をほどこすことでもなく、商賣人のように帳簿につけておくためのものでもない。

援助について自慢することだけを好み、それを政治的干渉と經濟的壓力の手段に悪用するのは、プロレタリア國際主義とは全く緣もゆかりもないことである。資本主義諸國間でやられているようなひも付きの「援助」、內政干渉を前提とした「援助」は社會主義國間にはありえないことであり、また絕對にあつてはならないことである。

社會主義諸國の援助は、それをうける國ぐにの主權と獨立を固め、社會主義陣營の强化發展をはかるものでなければならない。

ある人たちは、一國の黨大會を國際共産主義運動での「新たな段階」の始まりだと言いくるめ、一つの黨の政策と決定を國際共産主義運動の「共同綱領」だと宣言して、それをほかの兄弟黨に天下り式におしつけようとしている。

ある一つの黨の決定や措置は、その黨の內部だけで義務的なものであつて、決して他の黨の活動を規制することはできない。

ましてや、いわゆる「個人迷信反對」運動を他の黨におしつけようとし、それを看板にして兄弟黨、兄弟國の內政に干渉し、それらの國の黨指導部をくつがえすための活動をおこなうようなことは、絕對に許され

ない。まさに、「個人迷信反對」騒ぎによつて多くの兄弟黨が、いたずらに「熱病」にかかり、國際共産主義運動が大きな損失をこうむつたのは事實ではないか！　それにもかかわらずいまなお、一部の人たちによつて「個人迷信反對」の騒ぎはつづいている。このような行動は國際共産主義運動から斷じて排撃されるべきである。

ある人たちはまた、他の兄弟黨の國内政策と對外政策を規定し、その實踐を統制しようとしている。ほかの黨の事情もよく知らずに、自分の主觀的な見解を兄弟黨におしつけることは社會主義革命と社會主義建設に莫大な損失をあたえる。

かつて一部の同志たちは、わが勞働黨の社會主義建設政策にたいしても當然の理解と支持をしめさなかつた。

かれらは、われわれの「五カ年計畫は幻想だ」とか、「機械製作工業を建設する必要はない」とか、「農業協同化のテンポがはやすぎる」とか、「農業機械なしにどうやつて農業を協同化できるか」などと、他人の實情も知らずにいろいろとけちをつけた。

もちろん、われわれは、自分の決心にしたがつて獨自的に行動したので、そのために大きな損失をうけてはいない。だが、もしそうでなかつたとしたら、なんらかのわざわいを招くこともあり得たことは想像に難くない。

異なる環境と歷史的條件のもとにそれぞれの國の社會主義革命と社會主義建設が進められている狀況にあつて、ある一國の黨の政策とか、經驗が、他のすべての國に一律に適用されえないことは明らかである。

共産黨・勞働者黨は、互に信じ、その成果をともに喜び、兄弟黨の路線と政策にたいして當然な理解をしめし、兄弟黨の經驗を尊重し、謙虚に互に學ばなければならない。

ところが、他國の内政に干渉することがくせになつている一部の人たちは、革命鬪争と建設事業でおさめ

た兄弟黨の實質的な成果に關心をはらい、喜ぶのではなく、いつも兄弟黨を疑い、兄弟黨が自分の「訓示」通りにやつているか、自分の經驗をそのまま眞似ているかどうかにだけ眼を光らしている。

そして、兄弟國の出版物や放送がある一國の黨の決定や文献を報道するのが義務であるかのように一方的に要求し、兄弟國で、ある一國の黨の歴史をどのように研究し、ある一國の言語をどのように學習しているかについてまで監督しようとし、甚だしくはある一國の映畫をよく見ているかどうかまでもただし、干渉しようとしている。ここにはもう、平等と相互尊重の精神などさがしだすことさえできない。

これらのことは大國ショービニズムのあらわれだとしかいえない。

もしも、兄弟黨および社會主義國間の關係がこのようなものになつてしまうならば、どうしてそれをプロレタリア國際主義にもとづく新しい形の國家關係だといえるであろうか。

帝國主義諸國間の關係は、大國が小國の內政に干渉し、それらの國に自己の意思をおしつけ、一方的な尊重と服從を要求する支配と從屬の關係である。帝國主義諸國は、表面上は互の「親善」と「團結」を云々するが、うらでは相手方に反對する破壊工作をすすめ、口では「協力」と「援助」をうたうが實際には、他國を政治的經濟的に從屬させるための手段としてそれを利用している。

社會主義諸國間の關係は絶對にこうであつてはならない。社會主義諸國間の關係は、歴史上はじめて見られる完全に新しい形態の國家關係である。

この兄弟の關係を發展させ、社會主義陣營の統一と國際共産主義運動の團結を强めるために、「うたぐり病」をとりのぞき、大國ショービニズムを排斥しなければならない。

同時に、外からの壓力におされて獨自性を失い、他の黨に盲從する傾向も必ず克服しなければならないとわれわれは考える。

自己の主体性もなしに他人のいつていることをそのままにくりかえしたり、他人の動きをそのまま見習つ

て動くのは共産主義運動の團結を強めることでもなければ、國際主義に忠實であることを意味するものでもない。反對に、それは自國の革命事業に必ずや損失をもたらし、國際主義的團結を弱めることになる。レーニンは「各國の共産主義的勞働運動の國際的戰術の統一は、決して多様性をとりのぞき民族的な違いを無視することを……要求するのでなく、共産主義の基本原則（ソビエト主權とプロレタリアート獨裁）を……民族的ならびに民族―國家的差異に正しくあてはめ、正しく適用することを要求」（4）するとのべている。

各國の黨は獨自性を堅持してこそ、自國の特性にあつた政策をとることができる。

共産主義者は誰かの氣に入ろうとして革命の事業をしているのではない。それぞれの黨は自分自身のマルクス・レーニン主義的信念にもとづいて自國の革命をみちびき、自國の人民にたいして責任を負つている。かれらは、革命と建設で提起された問題について必ず獨自的に判斷し、マルクス・レーニン主義の原則を自分の國の歴史的條件と民族の特性にあうように創造的に適用して政策をたて、實施しなければならない。社會主義革命と社會主義建設で、マルクス・レーニン主義の一般的原則からはずれてもならず、また民族の特殊性を無視して兄弟黨の政策や經驗を機械的にまねてもならない。

金日成同志は次のようにのべている。

「われわれは今後も、ひきつづき兄弟黨の經驗を研究し、そこから學ばなければならない。しかし、われわれはつねに、そうした經驗がその國のどんな歴史的發展段階とどんな具体的な社會階級的關係から創造されたか、それを適用するわが國の具体的な實情はどうかについて研究し考えなければ、敎條主義のあやまりをさけられない」（5）と。

他人の經驗をうのみにしてはならない。敎條主義のあやまりをおかすならば、結局、その黨は現實と人民大衆から浮きあがり、國際共産主義運動の前に負つているその民族的および國際的義務を十分に遂行できな

くなる。

それゆえ、各國の黨が主体性と獨自性を堅持することは、その國の革命の發展と國際共産主義運動の統一のために重要な意義をもつている。

各國の黨が社會主義革命と社會主義建設で創造した經驗にたいしては、それぞれの黨で互に尊重しあうべきである。

ある特定の黨の經驗だけが有益であり、模範となりえ、他の黨で創造された經驗は學ぶべきものがなく、とりあげるべき値打がないと考えてはならない。

かつてレーニンとその偉業を繼承したスターリンを首班とするソ連共産黨の導きのもとに、ソ連人民が社會主義革命と社會主義建設でつみあげた歴史的經驗は普遍的意義をもつ貴い元手である。

この歴史的經驗を否定し、かつてソ連人民が歩んできた時期を「暗黒の時期」とみなすのは、とりもなおさずマルクス・レーニン主義の一般的眞理と十月革命の道からはなれることを意味する。チトー一味のいわゆる「ユーゴースラビアの道」はその一例である。

過去に資本主義が發達していた國の經驗と同樣に、植民地、半植民地であつた國ぐにで創造された社會主義革命と社會主義建設の經驗もまた重要な意義をもつている。

植民地、半植民地であつた國は、資本主義が發達していた國とはことなる社會經濟的條件、歴史的傳統、民族的風習など、固有な特性をもつている。これらの特殊性は絶對に無視してはならないものである。

植民地從屬國であつた國々の社會主義革命と社會主義建設の經驗は、とくに被抑壓民族と新生獨立國人民の革命鬪爭にとつてきわめて有益である。

こんご、さらに多くの國が社會主義の道に進めば進むほど、またそれぞれの國の具体的な條件が違えば違うほど、社會主義革命と社會主義建設でますます多樣な經驗がつみあげられるであろう。

各國の黨は、自國の革命發展の理論的、實踐的問題をたくみに解決することによつて、ひとしくマルクス・レーニン主義の寶庫をゆたかにするのにともどもに貢献するのである。社會主義陣營の統一と國際共産主義運動の團結は、もつぱら、それぞれの兄弟黨と兄弟國の意識的で責任ある努力によつてのみ守ることができる。共産黨・勞働者黨および社會主義諸國は、一貫して完全に平等な立場で、互に信頼し、尊重し、互に支持し協力しあう政策をとるべきである。

四、社會主義陣營の諸國をそれぞれ强化しなければならない

直接、帝國主義と對峙している状況のもとにあつて、社會主義陣營の威力をたえず强化することは、社會主義諸國の共産黨・勞働者黨が負つている共同の任務である。

社會主義陣營の威力を强めるためには、社會主義陣營の統一をまもると同時に、それぞれの社會主義國をみな强化し發展させなければならない。社會主義陣營を形づくつている基本單位である個々の社會主義國をそれぞれ强化し、その力を結束してこそ、陣營全体を强化することができる。

社會主義諸國の黨は、自國の社會政治制度をしつかりとうち固め、經濟と文化を發展させ、人民生活を向上させ、國防力を强化するために全力をつくさなければならない。そうしてすでにたたかいとつた社會主義陣地をあらゆる方法をつくして固めるべきである。自國をりつぱにきずかないことには、いかなる黨も自國の人民と國際プロレタリアートにたいする責任を全うできない。

それぞれの國における社會主義革命と社會主義建設は、なによりもまずその國自身の力によつて遂行される。

共産主義者はまず自己の力を信じなければならない。黨の指導のもとに自國の人民のつきない力と國内の資源を最大限に動員することは、社會主義建設を成功裏におしすすめる基本的な保證である。

もちろんこれは、社會主義國家相互間の協力と援助をしりぞけることを意味するのではない。社會主義諸國は相互協力關係をたえず發展させるべきである。兄弟國相互の協力と援助は、社會主義建設を促すうえで重要な意義をもつものである。

しかし、それぞれの國における社會主義革命と社會主義建設で決定的な要因となるのはその國自身の力である。

もし、自分の力を信じないで、他人の援助にのみ頼るなら、革命も社會主義建設もできなくなるであろう。このような態度はプロレタリア國際主義とは全く緣がないものである。

自力更生の原則にもとずいてこそ、兄弟國の負担をかるくし、社會主義建設を成功裏にすすめ、社會主義陣營の全般的な發展にも實質的に貢献することができるのである。これが眞に、國際主義に忠實な態度である。

このことについて金日成同志は次のようにのべている。

「他國の援助だけをあてにして自力でやつていこうと努力しないのは革命家の態度でないし、こうした態度では革命をすることもできない。わが國の革命の勝利の決定的な要因はわれわれ自身の力である。われわれは主として自分の力でわが國に新しい社會を建設し、朝鮮革命の最後の勝利をかちとらなければならない。まさにこうすることこそ、プロレタリア國際主義の原則とも合致し、國際革命運動の發展にも寄與する道である」（6）

社會主義陣營の威力を强めるにあつて、一連の國ぐにでは自立的民族經濟をきずくことがさし迫つた問題として提起されている。

それぞれの社會主義國は、あいことなる社會的歴史的條件と經濟發達の水準をもつて社會主義建設にとりかかつた。ある國は舊社會の遺產として比較的發達した經濟をひきつぎ、ある國はかつて植民地または半植民地だつたためたちおくれた經濟をもつて社會主義建設の道をふみだした。

こうした狀況のもとで、社會主義陣營の威力を全般的に强めるためには、何よりもまずたちおくれた經濟をひきついだ國ぐにで、一日も早く自立的民族經濟を建設することが必要である。

社會主義諸國は機械工業を軸とする重工業を建設し、輕工業と農業を發展させて、國內の需要を基本的に自力でみたせる多面的かつ總合的な經濟を建設しなければならない。經濟的自立を確保してこそ、國の政治的獨立もかためることができ、發達した近代國家を建設することができる。自立經濟をきずく基礎の上でのみ、兄弟國とも平等と互惠の原則に立つて經濟上の相互協力と分業をさらに發展させることができる。

これらのことはみな偏見をもたずに物事をあるがままにみる人びとにとつては、始めからしごく明らかなことである。

ところが、いま一部の人たちは、社會主義國の自力更生と自立經濟建設の路線に極力反對し、これを妨害している。かれらは、自立的民族經濟の建設にたいして、「民族主義的偏向」だとか、「閉鎖的な經濟」だなどとレッテルをはりつけており、「政治的に危險で經濟的に有害な」路線であると非難している。かれらは眞相をゆがめて、經濟の自立的發展が、あたかも社會主義國間の協力や援助と矛盾するかのようにいいくるめている。

かれらは、「生產の傳統」だの「收益性」だのを云々しながら、多面的に發達した總合經濟はいつに大國でのみ建設できるものだといつている。つまるところ、ほかの國ぐにでは限られたいくつかの經濟部門以外は發達させるべきではなく、いつまでも奇形的な經濟をもたなければならないというのである。

これはいずれも實に奇怪きわまる論理である。

いつたい、完全な平等と自主性の保障、それを基礎にした相互の協力と援助が、社會主義諸國の相互關係の原則だとすれば、どうしてこの原則が經濟分野では「危險」で「有害な」ものだというのか？　それぞれの社會主義國の經濟的自立に反對する人たちは、それらの國の平等權と自主性の原則を有名無實なものにしようとするのではないだろうか？

發達した多面的な近代的工業と近代的農業を建設しなければ、經濟と文化、科學、技術を發達させることも、人民生活を向上させることも、社會主義を建設することもできない。

自立經濟の建設に反對する人たちは、そのかわりに社會主義諸國の「統合經濟」の創設を提唱している。かれらは「統合經濟」がいまの時期において社會主義諸國の國際的協力のもつとも理想的な形態だというのである。かれらは「統合經濟」の看板のもとに兄弟國の經濟的自立性をなくし、それらの國の民族經濟の發達を統制し、それを他國の經濟にしばられた奇形的なものにしようとしている。

こんにち、こうした「統合經濟」を實施することは、それぞれの國の內部の資源を最大限に利用できなくさせ、人民の創意をにぶらせ、經濟の發展に混亂と停滯をまねくであろう。

「統合經濟」の實施は、結局、それぞれの社會主義國の經濟を、ある一、二カ國の經濟の附屬物に落し、ある一、二カ國の經濟發展の利益に從屬させることになるであろう。

經濟的自立性を失えば、その國は完全な獨立も自主權も保障されなくなるのは、分りきつたことである。獨立と自主權のないところに眞の國際的協力も事實上ありえない。

自立經濟の建設に反對するのは、けつきよく經濟的におくれた國はいつまでもおくれた狀態にとどまつていなければならず、過去の農業國はいつまでも農業國のままとりのこされていなければならないことを意味する。

こうなれば、各社會主義國の發達水準の差はなくならないばかりか、ますます大きくなり、發達した國に

たいするおくれた國の依存狀態はいつまでも續くであろう。
これは、まだ帝國主義の抑壓のもとにある國の人民にたいしても、好ましくない影響をあたえるにちがいない。世界の人民は、社會主義諸國における社會主義建設を見まもつている。とりわけ、かつて植民地、半植民地であつた國ぐにの社會主義建設は、植民地從屬國人民と新生獨立國人民の大きな關心の的となつている。

もしあれこれの社會主義國が、自立經濟の路線を否定していつまでも經濟的に他國に依存し立ちおくれた狀態にとどまつているならば、それは必ず、植民地從屬國人民と新生獨立國の人民に社會主義制度にたいするゆがめられた表象をあたえることであろう。

社會主義革命をなしとげたのちにも、政治的經濟的に自立できず、他國に從屬するのであれば、いつたい誰が革命をしようとするだろうか。

社會主義陣營はただある一、二カ國だけでなくすべての國がひとしく發展するときにこそいつそうその威力が增大するのである。

そのためには、共產主義者は立ちおくれていた國ぐにの自立經濟建設の路線に反對すべきでなく、積極的に支持しなければならない。

さきに革命をおこない、經濟の發達している國ぐにには、あとに革命をおこないたちおくれた經濟をもつて社會主義の隊列に加わつた國ぐにの社會主義的工業化を、極力援助すべきである。すべての國がひとしく後進性を克服して、發達した先進國の水準にたつするようにしなければならない。それぞれの社會主義國の民族經濟を發達させ、その自主性を强め、それを基礎にして兄弟國間の相互協力をいつそう發展させていくべきである。

こうしてのみ、社會主義陣營の威力を眞に盤石にかためることができ、世界革命の遂行にも貢献すること

ができる。そうなるとき、帝國主義者はいつそう社會主義陣營の威力に壓倒され、あえて侵略行爲にでられなくなるであろう。

共産主義者は、たちおくれていた兄弟國が急速に自立經濟の土台に立つ發達した强國になるのをねたんだり恐れたりせず、それを喜び積極的にもりたてるべきである。これが眞のプロレタリア國際主義的行爲である。

社會主義諸國の黨は、社會主義陣營の防衛力を强めるにあつても、まつたくこのような立場に立たなければならない。

社會主義陣營の防衛力を鐵壁にかためるためには、やはり、ある一國だけでなく、すべての社會主義國の國防力をひとしく强化しなければならない。

社會主義陣營は世界平和と諸國人民の安全の守り手である。社會主義諸國は戰爭を望んではいない。しかし、帝國主義が存在する限り、戰爭の危險はとりのぞかれない。まさに、社會主義諸國の手ににぎられた武力は帝國主義者の侵略政策と戰爭政策をおさえ、社會主義諸國を守り、世界平和を守る强力な手段である。

それゆえ、いかなる口實のもとにおこなわれるにせよ、いささかでも社會主義陣營の武力を弱めるような行爲は絕對に許されるべきでない。

ところが、一部の人たちは、あたかもある一國の武力だけが社會主義陣營全体を守つており、ある一國の手中にある最新軍事技術だけが、社會主義陣營の安全と世界平和を維持しているかのようにいいふらしている。かれらは社會主義陣營の防衛における他の兄弟國の役割を輕視しており、それらの國の國防力を强めるために當然なすべき相互協力もおろそかにしている。

社會主義陣營の安全と世界平和を心から願つている人びとはこうした態度に同意できない。

もちろん、强大な社會主義國の武力と最新軍事技術は、それをもつている黨がマルクス・レーニン主義と

プロレタリア國際主義の原則を堅持するなら、帝國主義者の侵略と戰爭策動をおさえ社會主義陣營を守る上に大きな役割をはたせる。しかし、これは社會主義陣營の防衛をある一國の軍事力だけにたよつてもいいということにはならない。

社會主義陣營の防衛は、社會主義諸國全体の武力によるべきであり、ある一つの最新兵器だけにたよるべきでなく、なによりもまず人民の力にたよらなければならない。

社會主義陣營を守るため、個々の社會主義國はめいめい、自分にまかされた一定の哨所を守つている。どの社會主義國も自分の哨所を守るために他の國の軍事力だけに頼ろうとしてはならない。

げんざい、帝國主義者は社會主義陣營と世界人民に反對して「全面戰爭」を準備しているばかりか、「局地戰爭」と「特殊戰爭」を進めている。

こうした條件のもとで、社會主義國は社會主義陣營全体の軍事力にしつかり依據しながら、同時に自分の力と潜在力に最大限に依據して敵のいかなる軍事戰略的攻撃にも對處できるよう萬端のかまえをととのえるべきである。ここにおいて、社會主義諸國は互に協力して、ひとしく、最新軍事技術を所有し、國防力の强化をはかることが重要である。

これがまさに、共同して帝國主義に對抗し、ともどもに社會主義革命の獲得物を守る國際主義的連帶と戰鬪的團結の態度である。

社會主義陣營の威力を强化するにあつてそれぞれの國の黨は、また、すでにたたかいとつた社會主義制度をかためるためにたえず努力しなければならない。

ここで、マルクス・レーニン主義黨を强化し勞働者階級の指導的役割を强化し、勞農同盟をかため、人民の政治的道德的統一をあらゆる面から强めることが重要な課題である。

社會主義建設がはかどり、人民の生活水準が向上すればするほど、大衆の階級思想敎育と共產主義敎育を

いちだんと强めなければならない。共產主義教育が弱まるところでは、ブルジョア思想が頭をもたげ、大衆の階級的自覺がまひされる。

地主、資本家は、階級としては一掃されたが、その名ごりはまだ完全に消滅せず、古い思想の名ごりと古い生活の因習はいまもつて根强くのこつている。帝國主義者は社會主義諸國にいろいろなスパイ、破壞分子害毒分子をもぐりこませ、それらの國でとりのぞかれた搾取階級の殘存勢力と古い思想の殘りかすと古い風習をよりどころに、各種のブルジョア思想の毒素と頹廢的な生活樣式をうえつけ、社會主義國を變質させ内部からきりくずそうと企らんでいる。

これらの事情は社會主義諸國で、階級鬪爭をゆるめてはならないということを敎えている。社會主義國の黨は勞働者階級の手に握られた强力な武器、プロレタリア獨裁を强め、その役割をいつそう高めなければならない。

いま、一部の人たちは「自由」だ、「民主主義」だ、「遵法」だ、「人道主義」だ、何だといつて勤勞者の階級意識をまひさせ、イデオロギー上の混乱をかもし、階級鬪爭を放棄しようとしている。かれらは「敵對階級が一掃された」の、「政治犯がいない」だの、「鎭壓の對象がなくなつた」のという口實のもとに、プロレタリア獨裁がその使命を全うしたかのようにいつている。こうしたことは社會主義の陣地を弱めうる危險な態度である。

もちろん、それぞれの社會主義國では、社會階級構成に根本的な變化がおこつた。しかし、それは、決して階級鬪爭がなくなつたとか、もうプロレタリア獨裁が必要でなくなつたことを意味しない。

經驗は、社會主義國で人民を正しく敎育せず、プロレタリア獨裁を弱化すれば、ブルジョア思想がはびこつて、人びとは安逸にながれ、ゆるみがおきて自墮落になり、社會秩序をみだし、内外の敵に破かい活動のすきをあたえ、ひいては社會主義制度自体に重大な危險をまねきうることを敎えている。

それぞれの社會主義國は、たえず帝國主義者の破壞工作に警戒心をたかめ、ひきつづきプロレタリア獨裁を強めてこそ社會主義の陣地をかため、社會主義、共産主義建設を成功裏に進めることができるのである。社會主義國の黨は、ひきつづきうむことなく勤勞者の階級意識をたかめ、勞働者階級の歴史的使命にたいする自覺と革命をあくまでなしとげる思想で、かれらをしつかり武裝させるために努力すべきである。

こうして、社會主義陣營のすべての國がひとしく政治的、經濟的、文化的、軍事的にしつかりかためられその力が結集されるとき、社會主義陣營はたぐいない强大な威力を發揮し、帝國主義とすべての反動勢力にたいする勞働者階級と全世界人民のたたかいのとりでとしての使命を全うするのである。

五、社會主義陣營は世界人民の革命鬪爭を積極的に支援すべきである

共産主義者の終局の目的は、世界的な規模で社會主義と共産主義の勝利をおさめるにある。

それぞれの國の革命は、世界革命を構成する一部分である。個々の國における革命の勝利は、世界革命が最後の勝利へとすすむ過程である。個々の國の革命の勝利をかためないことには、世界革命の勝利をのぞめず、世界革命の勝利をはなれては個々の國の革命の終局の勝利は考えられない。革命における民族的任務と國際的任務は、きりはなすことのできない統一をなしている。共産主義者は自國の革命のためばかりでなく世界革命の勝利のためにあくまでたたかわなければならない。

レーニンは、プロレタリア獨裁を一國的なものから世界的なものに轉化させなければならないと敎えている。

共産主義者は、自國における革命の勝利と社會主義の建設を自己目的とだけみなしてはならない。「一國

における社會主義の勝利は、自足的課題ではない。勝利した國の革命は、自身を自足的なものとみるべきでなく、すべての國におけるプロレタリアートが勝利するのをはやめるための援助として、手段としてみるべきである」（スターリン）（7）

もし、自國の革命の成果だけに滿足して世界革命を忘れるなら、それは革命闘争を中途でやめることになり、プロレタリアートの國際的大業から身をひくことになる。共産主義者は、自國の革命だけでなく世界革命を完遂してこそ、自己に課せられた歴史的任務を全うしたといえる。

社會主義國の黨は、自國の人民とともに、國際プロレタリアートと全世界の被抑壓勤勞大衆の利益のために、たたかわなければならない。こうして始めて、社會主義陣營は、世界革命の基地としての任務を正しくはたすことができる。こんにち、社會主義諸國で經濟と文化を發展させ、あらゆる方法をつくして社會主義陣營を强めるのも、それ自体だけに目的があるのでなく、世界革命をいちだんと前進させるために必要なのである。

社會主義陣營は主として二つの面で世界革命を支援している。その一つは、社會主義國がじしんの社會主義建設の模範をとおして世界人民をたえず革命闘争にふるい立たせることであり、もう一つは、帝國主義者の侵略と略奪に反對し、人民の解放闘争を物心兩面から積極的に支援することである。

それぞれの社會主義國の黨は、まず自國に社會主義と共産主義をりつぱに建設しなければならない。社會主義國は、社會主義建設の成果をとおして、世界の人民に資本主義制度にたいする社會主義制度の優越さをしめすべきである。

すなわち、社會主義國では政權が勞働者階級をはじめ勤勞大衆の手ににぎられており、搾取と抑壓の根が永遠に斷たれ、失業と貧困が根だやしになり、勞働と休息、敎育の權利が保障されており、經濟と文化が急速に發展し、人民の物質的文化的生活がたえず向上している事實をはつきり見せてやらなければならない。

これとともに社會主義社會に固有の社會全体の政治的道徳的統一と人民の共産主義的モラルと高い風格を見せてやらなければならない。

このことは、資本主義世界の人民をさらに目ざめさせ、かれらを資本主義制度そのものに反對するたたかいへとふるい立たせるであろう。

ところが一部の人たちは、いま社會主義制度の優越さをしめすことをもつぱら經濟競爭に限定し、社會主義國でただ人びとがゆたかに暮し、享樂できるようにでもなればそれでよいかのようにいつている。こういうことになれば、社會主義制度の眞の優越さをしめすことができないばかりか、かえつて社會主義と資本主義との根本的な差異をあいまいにし、社會主義について人民にあやまつた表象をいだかせるようになるだろう。

かれらはまた、モデルの意義を一面的に强調し、被抑壓人民の革命闘爭を經濟競爭に從屬させようとしている。かれらは社會主義國が經濟競爭で勝ちさえすれば資本主義國ではひとりでに社會主義が勝利するものだと思いこんでいる。

經濟競爭での社會主義國の勝利は、まだ資本主義國における革命の勝利を保證するものではない。社會革命はなによりもまず、その國の社會發展の主觀的、客觀的要因の作用の總体的な結果として起るのである。

革命情勢の成熟と革命の遂行は、まずその國の內部的發展の產物であつて、その國の人民の自覺程度と組織性いかんにかかつている。あれこれの國の革命は、その國の人民自身によつて準備され、遂行されるものであつて、決して、他の者が代つてやることはできない。

經濟競爭がもつ意義だけを一面的に强調する人たちは、事實上、階級闘爭の立場から身をひいている。かれらは、社會主義國が經濟競爭で勝利すればおのずと世界の人民がみな解放されるのに、いたずらに犧

性を出しながら革命闘争をする必要がどこにあるのかといつている。
このような主張は、事實上いつまでも帝國主義と植民地主義の專横に甘んじるよう人民に說教するものでしかない。それは、各國人民の革命闘争にたいする支持と援助をしまいとすることであり、世界革命運動の發展をはばもうとすることである。
犧牲を恐れてたたかわず、手をこまねいて待つばかりでは、いつまでも解放と獨立はのぞめない。
革命闘争の犧牲についてそれほど向きになつてさわぐ人たちが、資本主義制度のもとに搾取と無權利、失業と窮乏、飢えと疾病のため、毎日毎時間、無數の勤勞者が苦しみ、命を奪われていることにはなぜ目を向けようともしないのか！　人民のすぐれた息子や娘たちが、野獸のような帝國主義者の迫害と彈壓によつて獄中に苦しんでおり、むざんに刑場の露と消えているのをどうして見すごしていられようか！
世界革命を支援するのは、社會主義國と共產主義者の國際主義的義務である。レーニンは勝利をおさめた國が「すべての國の革命を發展させ、支援し、激勵するために、一國でなしうる最大限のことを實行」（8）すべきであると敎えている。
社會主義國は世界革命を支援しながら、誰と同盟し、どこに攻擊のほこ先を向けるべきであろうか？　社會主義國は國際プロレタリアートと同盟すべきであり、被抑壓人民と同盟すべきであり、被抑壓民族と同盟すべきであり、全世界のあらゆる進步勢力と同盟すべきである。また、帝國主義に反對する共同戰線をたえず擴げ、强めるべきであり、すべての勢力を結集して帝國主義を最大限に孤立させなければならない。われわれは、諸國人民の團結した力で帝國主義者とだんこたたかうべきであり、世界人民の最悪の敵、アメリカ帝國主義に攻擊のほこ先をむけるべきである。
帝國主義に反對するすべての勢力と團結し、あらゆる形態の反帝國主義闘争を支援しなければならない。
それがいかにささやかであろうと、いささかなりとも帝國主義を弱めることができるものであれば、われ

われは、そうしたすべての勢力を積極的にひきよせ、支持すべきである。

社會主義諸國は、資本主義社會を革命的に改造するためにたたかつている全世界の勞働者階級に、階級的な連帶と戰闘的な支持を示すべきであり、帝國主義と植民地主義の鎖をたちきろうとする被抑壓民族の解放闘爭をあらゆる面から支援すべきである。われわれは諸國人民の權利と利益を侵す帝國主義者のいかなる策動とも妥協してはならず帝國主義者の反革命輸出のあらゆる陰謀を阻止し、破綻させなければならない。

社會主義陣營は、世界平和の大業のためだんこたたかわなければならない。平和の闘爭は反帝闘爭と切りはなしては考えられない。

社會主義陣營は、帝國主義者の侵略政策と戰爭政策をことごとくばくろし、粉碎すべきであり、平和と民主主義のための各階層勢力の闘爭を積極的に支持し聲援すべきである。

これらすべてのことは、情勢を帝國主義にますます不利に、平和と民主主義、民族獨立と社會主義にますます有利にかえるであろう。ただこのような革命的立場を堅持してのみ社會主義陣營は名實ともに世界革命の基地としての役割を果すことができるのである。

帝國主義者と仲良くし、その機嫌を損ねないために勞働者階級の革命闘爭とアジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の民族解放闘爭を支援せず、戰爭の危險にかこつけてかれらの武装闘爭に反對するのは、諸國人民の革命の偉業をうらぎり、帝國主義者の前に投降することである。

世界革命を支援しない現象とともに、「援助」の名にかくれて世界革命の發展に障害をあたえる非階級的な現象を警戒すべきである。

社會主義國の援助は、あくまで援助を受ける國の民族獨立をかため、革命勢力を强化し、國際舞台で帝國主義の陣地を弱めるように提供されなければならない。

こうした立場をはなれた「援助」は、進歩勢力を助けるのでなく反動勢力を助け、革命の發展に役立つの

でなくかえつてそれを妨げることになる。

社會主義國は、軍事援助をふくむ各種の援助を、ほかの兄弟國にたいする反對と攻撃に利用されるようあれこれの國にあたえてはならない。これは世界革命を害する行爲である。

社會主義國の人民は、つねにたたかう人民を支援することが神聖な國際主義的義務であることを忘れてはならず、自國の社會主義建設が世界革命運動の發展に仕えるべきだという革命的な思想に生きなければならない。

もし、自國の社會主義の勝利だけで滿足し、すでにかちとつた革命の成果をエンジョイするばかりで、自分さえいい暮しができれば良いといつたぐあいにすごすとすれば、社會主義陣營がどうして世界革命の基地の役割を果せるだろうか？

どのような社會主義國でも、人びとが他人より少なく働き、安逸と享樂に溺れるようになれば、階級的兄弟の苦しみも忘れはて、世界革命の利益も眼中におかなくなるであろう。これは革命をする人たちの態度でなく信義ある共産主義者の態度とはいえない。社會主義國の人民は、自國の繁榮と、全世界勤勞人民の解放のために、ひきつづき緊張をゆるめずに闘い、もつとたくさんのことをしなければならない。

世界革命はまだ終つてない。われわれはまだ人類の三分の二が資本の搾取と抑壓をうけている事實に目をつぶることはできない。まだ少なからぬ人民が植民地主義のいまわしいくびきにつながれており、帝國主義者は新生獨立國をも新しい形態の植民地主義のくびきにつないでいる。

もし、眞の共産主義者であれば、國際主義者であれば、これらのことにほおかむりすることはできない。

地球上に帝國主義が存在するかぎり、共産主義者はたたかいをやめるわけにはいかない。

しかるに、一部の人たちは、全世界の勞働者階級にたいするその歴史的な使命を忘れさり、目前の安逸をむさぼつてたたかいを中途でやめようとしている。かれらは自分が革命をやらないばかりか、他人が革命を

することまで邪魔している。

自分も革命をせず、他人にもさせなければ、いつたい誰が革命をやるというのか！ 誰も革命をやらなければ、まだ解放されていない人民の運命はどうなるのか？

困難と試練の前に動揺し、革命にあきて隊列からはなれていく者があつても、革命をめざす人びとは闘争をつづけなければならない。

すべてのマルクス・レーニン主義黨は、全世界の人民と固く團結して革命運動を更に前進させるべきであり、最後まで革命をやりぬくべきである。

世界人民にたいする社會主義陣營の支持、聲援は、決して一方的なものではない。社會主義國は、世界人民を支援しているだけでなく、同時にその支持をうけており、またそれを必要としている。全世界人民の支持は、社會主義國にとつて大きな力であり、援助である。

資本の抑壓に反對する勞働者階級と勤勞大衆の革命闘爭と植民地從屬國人民の解放闘爭は、帝國主義とその植民地体制に打撃をあたえ、その陣地を弱めさせる。これは國際舞台での力關係を社會主義に有利にかえ社會主義陣營の威力を強める上に大きた力となる。

資本主義國の人民が、自國政府の侵略政策と戰爭政策に反對してだんこたたかい、それを破綻させるならそれはその國の人民の利益を守るだけでなく、社會主義諸國に對しても大きな支援をあたえることになる。世界各國人民の强力な共同闘爭によつて帝國主義者の手足がしばりあげられ、平和が固められるならば、社會主義諸國の社會主義建設はますます早められるであろう。

これまでに、帝國主義者が狂氣のように社會主義陣營反對のカンパニアをくりひろげるたびに、資本主義國の勞働者階級とすべての被抑壓人民、被抑壓民族が社會主義諸國を支持し、ようごして立つたことは、社會主義國を大いに力づけた。われわれは、アメリカ帝國主義との激しい戰爭のとき、世界の人民が朝鮮人民

の正義のたたかいを積極的に支持してくれたことを忘れていない。

どのような國も、全世界勤勞者の支持を必要としない國はない。相互支持と助け合いによつてわれわれの力は倍加し、革命の大業は促進されるのである。

全世界の勤勞人民と被抑壓人民は、マルクス・レーニン主義とプロレタリア國際主義の原則にもとづいてさらに固く團結して、帝國主義と頑强にたたかわなければならない。偉大な社會主義陣營諸國の人民と全世界の人民が團結してたたかえば、必ず最後の勝利をかちとるであろう。

六、修正主義に反對しマルクス・レーニン主義を守りとおすべきである。

社會主義陣營は、全世界の勞働者階級と人民の解放闘爭の强力な基地であり、世界平和の不敗のとりでである。世界人民は社會主義陣營の隆盛と國際共産主義運動の發展に希望と期待をかけており、そこに死活的な利害關係をむすびつけている。

統一・團結しているとき社會主義陣營と國際共産主義運動は强力かつ偉大であり、進歩的人類にたいする歴史的任務を全うすることができる。

しかし社會主義陣營と國際共産主義運動は、こんにち、內部の意見相違のため重大な局面に處している。國際共産主義運動におこつた意見相違は、すでに社會主義陣營と國際共産主義運動の運命にかかわる原則的な意見の相違に發展した。

この意見の相違は共産主義運動でのたんなる闘爭方法の問題ではなく、革命の根本問題にかかわるものであり、ある個々の問題ではなくマルクス・レーニン主義の理論と戰略戰術の全般的問題を包括している。

マルクス・レーニン主義を守りとおすかとおさないか、帝國主義に反對してたたかうか闘わないか、革命をあくまでやりぬくかやりぬかないか、いまや問題は、このように提起されている。

國際共産主義運動におけるげんざいの論争は、けつきよく、マルクス・レーニン主義と修正主義との闘争である。

現代修正主義者は「情勢が變つた」という口實でマルクス・レーニン主義の革命的眞髄をぬきさつており共産黨・勞働者黨代表者會議の宣言と聲明の革命的原則を公然とふみにじつている。

修正主義者は帝國主義者と無原則的に妥協し、むやみやたらに讓歩し、いいなりになつている。かれらは革命をきらつて放棄しており、各國の黨と共産主義者を修正主義の泥沼にひきずりこもうと策動している。

修正主義者は世界のいたる處で騒々しくがなりたてている。かれらは國際共産主義運動の隊列に混乱と緊張をつくり出し、社會主義陣營を分裂させようとしている。かれらは行くさきざきで社會主義に泥を塗り、社會主義陣營の權威をそこねており、全世界の勞働者階級が長期にわたり血と汗でかちとつた偉大な陣地をひとつひとつ、つきくずそうとしている。

もしもこのような事態を放つておくならば、社會主義陣營と國際共産主義運動の前途ははたしてどうなることだろう？

共産主義運動の隊列内で頭をもたげた右翼日和見主義を機を逸せず克服しなければ、國際プロレタリアートの大業ははかり知れない損失をこうむることは明らかである。

マルクス・レーニン主義は断じて修正主義と妥協しえず、革命の路線と日和見主義の路線とは兩立できない。

修正主義とのたたかいなしには、いま、社會主義陣營と國際共産主義運動の内部に發生した重大な事態を

打開することはできず、共産主義運動を前進させることも、勞働者階級の歴史的偉業を遂行することもできない。

現代修正主義に反對し、マルクス・レーニン主義を守りとおすためにたたかうことは、全世界の共産黨・勞働者黨と共産主義者のさしせまつた革命の任務である。

こんにち、修正主義とのたたかいは、個々の黨に限られたものでなく、世界のあらゆる國の黨と共産主義者にかかわりのある問題である。

こんにちの情勢は、世界のすべての共産主義者が強い責任感をもつて、冷靜に事態をきわめ、深く考えて正しい立場をとることを要求している。それぞれの國の共産主義者は誰でもみな、自分の黨と自國の革命にたいして責任をおつており、世界のあらゆるマルクス・レーニン主義黨と共産主義者が、國際共産主義運動にたいして責任をおつている。

社會主義陣營と國際共産主義運動に發生した問題は、當然われわれ共産主義者じしんが解決しなければならない。

當面の難局は決していくつかの黨や何人かの人びとによつて打開されるものではない。それは、世界のすべての黨と共産主義者が相ともに努力してこそ、マルクス・レーニン主義的原則にもとづいて解決できるのである。

もちろん、修正主義とたたかう方法と形態は、それぞれの黨の具体的な實情によつて異なろう。いかなる方法と形態をとるかは、その國の黨が自ら判斷して決めるべき問題である。マルクス・レーニン主義黨と共産主義者は、原則的で自主的な立場からこの闘爭に參加しなければならない。

われわれはまず、すべての黨で共産主義者が修正主義反對の壁を高め、修正主義者の活動を抑えつけなければならないと考える。

修正主義者に壓力を加え、かれらを孤立させ、修正主義が大衆の中にしみこまないようにすべきである。誰ひとり修正主義に染まらないようにし、すべての共産主義者と大衆を革命的に自覺させ結束させて、全黨がマルクス・レーニン主義的立場にしつかり立つようにし、共産主義的な革命の隊列をしつかり固めなければならない。

それぞれの黨がみな修正主義とたたかうと同時に、國際共産主義運動の隊列の內部で、他人に修正主義をおしつけようとする行爲をだんこ制止し、これに從わないようにすることがまた重要である。

ある人たちは、その黨の既成の權威を利用していたるところに修正主義をはん濫させ、自分のあとにつづくことを他國の黨に强制している。かれらは、自分たちの修正主義的な立場を支持し協力してくれるような「仲間」を集めるために憂身をやつしている。

マルクス・レーニン主義黨と共產主義者は、こうした行動を決定的に排斥すべきであり、なにびとも、社會主義陣營と國際共產主義運動をかつてにひきまわせないようにしなければならない。

修正主義をおしつけるのを受け入れてはならず、修正主義者に從つてもならない。共産主義者はどんな場合でも原則的な立場を曲げてはならず、つねに獨自の立場を堅持しなければならない。

修正主義に反對し、マルクス・レーニン主義を守りぬくためには、國際共產主義運動の隊列內で、各國の黨內で、廣く批判と自己批判を展開し、强力に思想鬪爭をすすめるべきだとわれわれは考える。

共產主義者にとつて、批判と自己批判は、思想鬪爭の銳利な武器である。

こんにち、國際共產主義運動にあらわれた意見の相違は、つまるところ、すべての黨と共產主義者の根本的な立場にかかわる思想的政治的問題である。このような問題は、高飛車な方法や、クサイ物にフタ式のあいまいなやり方では解決できず、ただすべての共產主義者の參加する批判と自己批判、深刻な思想鬪爭によつてのみ解決できるのである。

「共産主義者の任務は、自己の運動の弱点に目をつぶらず、それをよりはやく、根本的に克服するために公然と批判することである」(9)とレーニンは教えている。

われわれは思想闘爭によつて、すべての黨とすべての共産主義者をさらに鍛え、大衆を革命思想で武装させ、かれらを革命闘爭へと準備させることができるのである。

批判と自己批判は、事實にもとずいて、平等で公正な立場から自由に行われなければならない。批判と自己批判では、あくまでも原則的で同志的な立場を堅持すべきである。國際共産主義運動の隊列でも、個々の黨內でも、共産主義者の正しい聲を抑えつけ、「分派」だの何のとレッテルをはりつけ、復讐するようなことがあつてはならない。

共産主義者は、自分の誤りを改める勇氣と能力をもたなければならない。

修正主義に反對する廣範な批判活動と思想闘爭によつて、マルクス・レーニン主義と修正主義の線ははつきりとわかれ、誰が正しく誰が誤つているかが、すべての人びとに明らかになるだろう。そうなれば修正主義は破産し國際共産主義運動は隊列の純潔を確保することだろう。こうしてこそ、マルクス・レーニン主義にもとづく社會主義陣營の統一と、國際共産主義運動の團結をまもりぬくことができ、健全な土台にふまえて共産主義運動を發展させることができる。

階級敵との困難なたたかいの過程には、落伍者があらわれることもありうる。しかし革命の戰列は純潔を確保することによつてさらに強化され、ひきつづき成長するだろう。共産主義者は修正主義と日和見主義に反對するたたかいを通して、たえずその隊伍を革命的に固めてゆかなければならない。經驗はいつに、革命の戰列がマルクス・レーニン主義の思想一本でしつかり結束してこそ、強力な戰闘的部隊となり、力強く革命を前進させうることをしめしている。

國際共産主義運動はあらゆる反マルクス主義的、日和見主義的な思潮とのはげしいたたかいをとおして發

展し、勝利してきた。

このたたかいの過程には一時的な紆余曲折もあつた。しかし共産主義者はつねに革命的路線をまもつて難關をつきぬけ、自己の隊列を小さいものから大きなものに、弱いものから強いものにとたえず發展させてきた。

ひところ第二インターナショナルの修正主義者はその指導的な地位を利用して、國際共産主義運動に大きな混乱をひきおこした。そのとき、修正主義者の勢いは、非常に大きいように見えた。

しかし、レーニンを先頭とする眞の共産主義者は、あらゆる難關をおし切つて、革命的マルクス主義をまもりとおすために、斷固たるたたかいをくりひろげて、修正主義を完全に克服し、國際共産主義運動を、新たな段階へ發展させた。

こんにち、國際共産主義運動は、過去とは比べものにならないほど成長している。レーニンの思想で武装した數百數千萬の共産主義者の大軍が育つた。マルクス・レーニン主義の革命の旗は、共産主義者の手にしつかとにぎられており、世界のいたるところではためいている。

現代修正主義者は、レーニン主義のベールをかぶつて、一時は人を欺くことができる。しかしかれらは、マルクス・レーニン主義の偉大な眞理をおおいかくすことは決してできず、國際共産主義運動の巨大な流れを阻むことはできない。

現代修正主義者の策動にもかかわらず、こんにち、被抑壓勤勞大衆の革命闘爭と民族解放闘爭は高揚の一路を辿づている。全世界の勞働者階級と被抑壓人民の偉大な革命闘爭によつて、修正主義者の正体はばくろされ、かれらの日和見主義的な路線は破産している。マルクス・レーニン主義の偉大な生命力は、實踐を通していつそう確證されており、敵とのはげしい闘爭の中で、共産主義的革命の隊列は、絶えず成長している。

帝國主義者とその手先らの搾取と抑壓がある限り、人民大衆は、ひきつづき解放と獨立を要求してたちあ

がり、人民の革命闘争がもり上るにつれて、共産主義運動はますます發展するであろう。修正主義の敗北とマルクス・レーニン主義の勝利は避けられない。

全世界の共産主義者は、マルクス・レーニン主義の革命の旗をいつそう高くかかげなくてはならない。すべてのマルクス・レーニン主義黨が團結し、全世界の共産主義者が團結しなければならない。マルクス・レーニン主義黨と共産主義者は、社會主義陣營の統一と國際共産主義運動の團結をかたくまもるべきであり、全世界の革命的人民とかたく團結し、革命を最後まで遂行しなければならない。

世界反動の元凶、アメリカ帝國主義とじかに對峙している朝鮮の共産主義者は、いかに複雜な環境にあつても、つねに修正主義に反對し、マルクス・レーニン主義とプロレタリア國際主義の原則、共産黨・勞働者黨代表者會議の宣言と聲明の革命的原則をまもりぬいた。わが勞働黨は、帝國主義に反對してだんこたたかい、全世界の勞働者階級と人民の革命闘争を、積極的に支持してきた。

わが黨は、國際共産主義運動で、意見の相違が發生した當初から、始終一貫、團結の原則をまもつてきた。

わが黨は、今後も變りなくマルクス・レーニン主義とプロレタリア國際主義の原則、共産黨・勞働者黨代表者會議の宣言と聲明の革命的原則に忠實であろうし、帝國主義と修正主義に反對し、社會主義陣營と國際共産主義運動の統一をまもるため、頑强にたたかうであろう。

われわれは、全世界の共産主義者と勤勞人民が、不滅のマルクス・レーニン主義の旗を高くかかげて力强く前進しつづけ、偉大な勝利をかちとることを確信する。

× ×

(1) レーニン全集　第三一巻　二〇八ページ
(2) 朝鮮勞働黨出版社　一九六〇年版　一九ページ
(3) スターリン　ソ連共産黨第一九回大會での演説
(4) レーニン全集　第三一巻　七二ページ
(5) 金日成選集　第五巻　二四五ページ
(6) 金日成　朝鮮民主主義人民共和國政府の當面の課題について（朝鮮民主主義人民共和國最高人民會議第三期第一回會議での演説）
(7) スターリン全集　第六巻　三九六ページ
(8) レーニン全集　第二八巻　二六九ページ
(9) レーニン全集　第三一巻　一六一ページ

Document generated by Anna’s Archive around 2023-2024 as part of the DuXiu collection (https://annas-blog.org/duxiu-exclusive.html).

Images have been losslessly embedded. Information about the original file can be found in PDF attachments. Some stats (more in the PDF attachments):
{
"filename": "56S+5Lya5Li75LmJ6Zi16JClXzEyMTIzNTEyLnppcA==",
"filename_decoded": "\u793e\u4f1a\u4e3b\u4e49\u9635\u8425_12123512.zip",
"filesize": 3554642,
"md5": "f492b3f26abec67314cf3fb5ef0705d0",
"header_md5": "42c9bec0f223a3c9bd3bae7335983138",
"sha1": "f60d1dd619e44000019b290198a0b515f89a8646",
"sha256": "cfebcedf70ca4bbc646fdcdf83bab4862c49a344097b3fae3182f296baad6e01",
"crc32": 2259210876,
"zip_password": "",
"uncompressed_size": 3590972,
"pdg_dir_name": "\u2554\u03c4\u2557\u00df\u2553\u2248\u2565\u03c3\u2552\u2264\u2559\u00ac_12123512",
"pdg_main_pages_found": 47,
"pdg_main_pages_max": 47,
"total_pages": 49,
"total_pixels": 195463600,
"pdf_generation_missing_pages": false
}